

## 研究実施のお知らせ

### 研究課題名

高齢者透析患者の導入後予後および自立度の検討

### 研究の対象となる方

当院で透析導入した 80 歳以上の患者。

2012/1/1 から 2023/12/31 に透析導入した患者。

### 研究の意義

透析導入患者が高齢化し、透析が必ずしも最善の治療ではないとする報告もある。海外では老化が進行した高齢者では透析による生存期間延長は限定的、逆に ADL 低下を来す。医師主導の透析開始は患者の透析開始後の後悔と関連するなどの報告がある。2020 年透析開始/見合わせの提言が透析学会から出ている。更に保存的腎臓療法（conservative kidney management:CKM）の概念も出てきて血液透析、腹膜透析、移植そして CKM という選択肢を患者、家族に選択させる方向に向かっている。しかし高齢者が透析導入後も社会生活、日常生活が満足して継続できているかを本邦で検討した報告はない。これらのことを明らかにできれば末期腎不全時の患者選択の情報として、患者に提供できる資料となる。そのためなるべく詳細な透析後の情報をカルテ上で調査、解析する

### 研究の方法

研究対象者（下記）の当院カルテおよび維持透析カルテから血液生化学検査、画像所見、臨床経過のデータ（合併症、症状、生死の有無）、透析状況、生活状況（通院方法、入院透析か通院透析か、自立度（食事・排泄・入浴）、要介護度、認知症の有無を抽出して高齢透析導入患者が ADL を保ちながら日常生活の継続が何時まで可能か、またその悪化因子を統計学的に解析する。

集計したデータは当院の外部から容易にアクセスできないパソコンで管理します。

当院で対応表を作成し、匿名化した上で症例報告書を作成する。データは作成した対応表で管理し、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。

研究に関するデータおよび関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも 5 年間保管し、その後匿名化して破棄する。

### 研究の期間

研究開始日～2028/12/31

### 研究組織

大分赤十字病院 腎臓内科

研究代表者 内田英司

大分赤十字病院 副院長 金田幸司

### 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出頂ければ利用を停止できます。

なお、利用停止の申し出は、2023 年 12 月 31 日までをお願いいたします。研究機関中、随時解析・結果の公表を行っていくため、情報の一部を削除することが出来ず、ご要望に沿えないことがあります。

### 相談・連絡先

この研究について、詳しいことを知りたい方は、ご自身の情報を利用してほしくない方、その他、質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者

大分赤十字病院 副院長 金田幸司

研究事務担当者

大分赤十字病院 腎臓内科 内田英司

〒870-0033 大分県大分市千代町 3-2-37

電話 097-532-6181 FAX 097-533-1207